

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	法人の理念「皆様のお役に立ち喜んで頂けることを創造し続けます」とは別に、グループホーム職員自らグループホームの理念「手と手のぬくもり溢れる笑顔」をつくっている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	管理者、職員は法人の理念及びグループホームの理念を常に念頭に置き、挨拶、笑顔を忘れずに日々の業務に携わっている。	出勤時に「おはようございます」「ありがとうございます」「失礼いたします」「申し訳ありません」の挨拶復唱、笑顔で「今日も一日よろしくお願ひします」と挨拶から始めている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ご家族には入居の際に理念を説明し、地域の広報誌に掲載していただいたり、秋祭りを通じて事業所の取り組みを地域の方々に理解していただけるようにしている。	○ 介護教室の開催や認知症についての相談窓口になっていけるようにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩の際には挨拶を忘れないようにしている。秋祭りでは近隣一軒一軒を回りお声をかけたり、新年の挨拶や補修工事などの際にも訪問したりしている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域のイベント(住吉センターストリート等)に積極的に参加し、秋祭りを実施することで地元の人々と交流するよう努めている。	○ 運営推進会議において情報をいただいております、地域のイベントには引き続き参加していきたい。災害対策等についても今後共同で訓練等行えるよう検討している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々を招き、認知症の理解を深めていただける様、「認知症老人の家族の会」の小川代表の方に講演をお願いしたことがある。	○	今後も介護保険について、認知症ケアについて地域に啓蒙できるよう、同様の研修会や相談窓口等を設け取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については職員全員で取り組み、自己の見直しを行い、過去の外部評価では結果を受け、改善点について話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	○	改善点のみでなく、できているところもさらに良くしていけるように職員全員で努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度の外部評価について、運営推進会議で報告を行い、委員の皆様よりご意見をいただき、改善に向けてのアドバイスをいただく事ができた。	○	今後は防災対策や地域交流について相談していきたいと考えている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者、管理者が月2回以上、徳島市役所、海陽町役場を訪問し、指導を受けている。神戸市役所には毎月1回文書にて報告し、適時指導や情報提供を受けている。運営推進会議や閲覧時にも相談したり助言を受けている。	○	引き続き取り組みを継続していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	県社協等々の認知症研修に順次参加したり、地域包括支援センターに相談しつつ支援に努めている。	○	認知症研修や人権研修の勉強会により学ぶ機会を作り、全職員の理解を深めていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について詰め所に掲示することで、職員が常に意識できるようにしている。言葉遣いや対応には十分配慮していくようミーティング等で話し合いをしている。	○	虐待防止に努めるだけでなく、現状など資料を取り寄せ、勉強会にて取り上げたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の説明については、時間をかけ十分に説明を行っている。職員にも契約書及び重要事項説明書の内容を熟知するよう働きかけている。	○	職員全員が内容を熟知するよう今後も働きかけていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員はご利用様が、不満を抱いていないか常に意識しており、不満や苦情を聞きだせるよう努めている。不満がある時は時間をかけ話を聞き、日々の申し送りなどで周知し解決できるようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の際には近況報告を必ず行い、年に4回の通信にて状況をお伝えしている。金銭管理も出納帳にて毎月ご確認いただいている。職員の異動、退職については担当の利用者様のご家族など特定の方にとどめている。	○	面会が少ないご家族(県外在住の方等)には電話や郵便等通信の頻度を増やしたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際にさりげなく意見をお聞きできるよう心がけている。運営推進会議への参加も自由にできるようにしている。ささいな事でもご意見があれば、連絡ノート等を使い職員に周知すると共に、問題があれば速やかに解決できるように対応している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は月1回のミーティングにて話し合いの場を設け、反映に努めている。管理者は毎日(出勤時)夕方に行われる申し送りにて、意見や提案ができる場面を設けており、その他でも個々に意見や提案を聞くようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員配置は基準以上に配置しており、朝、夕の体制を増やしたりし、利用者様の対応に最大限対応できる体制を設けている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動が必要な場合にも段階的に最小限行くと共に運営者及び管理者は離職を最小限に抑えるよう、職員の健康面や悩みごとがないか等職員の心身について把握するように心がけている。異動や離職があった場合には、ご利用者様の不安を和らげるように、入居者と新しい職員との信頼関係ができるように全職員が協力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	今後も他のグループホームとの交流を持っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況をよくお聞きした上で、どう対応するか検討している。満床などで対応できない時は、他のサービスの紹介や問い合わせを行う事もある。また認知症における対応についてもアドバイスするようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にご本人と面会するなどして状況を把握すると共に、まず、顔馴染みの関係を築くようにしている。場合によっては併設しているデイサービスの利用から徐々にグループホームに馴染んでいただけるようにする場合もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者様を一人の人として受け入れており、ご本人の意向や望みを聞きだし、残された能力を発揮していただき、職員が学ぶ場面を大事にしている。干し柿作りや、正月飾り、畑仕事、調理等いつも助けていただいております。感謝の言葉をいつもお伝えするようにしている。	○	タクティール・ケアを導入し、コミュニケーションを深め、ご利用者様に安心感や心地良さを得ていただきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の日常において喜ばしいことはご家族にもお伝えし、共に喜び、困りごとにも場合によってご家族とも相談しながら一緒に支援していくよう心がけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族にまかせきりではなく、場合によっては職員が間に入ったりしてよりよい関係が継続できるように留意している。手紙のやり取りや電話の取次ぎも常に対応できるようにしている。親子日記(交換日記)をつけていただいている方もいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際にはご本人の自宅周辺に立ち寄り、お墓参りに出かけたり、昔の事をお聞きしたりして少しでも記憶に留めていただけるようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の席順や、外出時の乗車順に留意し会話が弾むよう心がけており、洗濯たたみなど作業時にも組み合わせに留意する等、日常生活の様々な場面を通じて、馴染みの関係づくり、役割づくりができるよう、見守り、支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家庭復帰をされた方は、現在も併設のデイサービスをご利用していただき、継続して交流がもてている。その他の方は定期的に連絡をとり、近況をお聞きしている。退居後も訪問していただけるご家族もいらっしゃる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にご本人の立場に立って、希望や意向をお聞きできるように努めている。またご本人のみでなく、ご家族にも意見を聞いている。	○	ご利用者が住み慣れた環境に少しでも近づけるよう対応している。畳の部屋や愛用していたミシン等置いている例もある。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主治医やケアマネに加えて、他のサービスを利用されていた場合には出来る限りの情報を提供していただけるよう働きかけ、ご家族にも入居時だけでなく継続してご本人の生活歴についてお聞きしている。	○	センター方式の一部を導入している。今後シートの使用(種類)を増やしていきたいと考えている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は一人ひとりの状況を観察、把握するよう努めており、心身の状態やADLに関する気づきは記録に残すようにしている。	○	センター方式の一部を導入している。今後シートの使用(種類)を増やしていきたいと考えている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は一人の職員のみで考えるのではなく、ご本人、ご家族、主治医の意見を十分に考慮し職員全体で意見を出し合い介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は月ごとに振り返りを行い、3ヶ月ごとに見直すこととしているが、心身の状況、ご本人やご家族の意見、要望などにより必要な場合は適時計画の変更を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践を毎日記録し、その他の気づきや心身の状況を個別に記録に残し、日々、情報交換、共有を行っている。また、毎月(必要があれば随時)全職員による振り返りを行い、介護計画に結び付けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者の心身の状態に応じ、もりの医院を受診したり、かかりつけ医への受診など柔軟に対応している。併設のデイサービスのハード(マッサージや浴場など)を使用することもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の婦人会の方、囲碁の相手やお菓子づくりに定期的に来ていただいたり、秋祭りでは多くのボランティアのご協力をいただいた。また消防より定期的に防災について指導いただいている。	○	今まで以上に、ボランティアや各機関のご協力を仰ぎたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護用品についての相談を行っている。	○	個々のご利用者様に合わせた、支援の幅を広げると共に、地域包括支援センターや併設、近隣の居宅との情報交換を継続していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点では地域包括支援センターとは運営推進会議の参加以外にも包括支援センターのケアマネが来所したり、管理者等が訪問している。	○	運営推進会議以外でも日常的に情報や意見交換をしたり、助言をいただくようにしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向を踏まえ、一人ひとり以前よりのかかりつけ医への受診を継続している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	法人内医師を通じ、専門医の受診を受けるよう体制をとっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設のデイサービスの看護職員に相談しながら健康管理に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際には頻回に訪問し、不安を軽減できるよう努めている。また早期退院に向けて、退院後の注意点を病院関係者と話し合い、早期の退院ならびに継続した利用ができるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	その都度の状況に応じて、ご本人、ご家族や医師との話し合いをもち、グループホームとして何をすべきか検討し、職員間で方針や対応について周知している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームとして何をを行うべきか、特に医師との連携を密にし、職員間で検討し全員に周知実践できるようにしている。	○	勉強会や研修を通して職員全体のレベルアップを図り、多岐な状況に対応できるよう努めたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院の場合には書面にて情報の伝達を行い、頻回に訪問する事で情報の伝達を密に行うようにし、特にご本人の不安を軽減できるよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけには常に注意して行うよう努めている。記録についてはイニシャルを用いたりしており、個人記録は放置せず、詰め所にて保管している。	○ 今まで以上に、ご本人に不快な言葉かけをしないよう、職員全員が配慮するよう努めたい。また、個人情報保護や接遇(笑顔)の研修を継続する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	能力に合わせた言葉かけ(筆談、ゼスチャー、選択肢提示)や説明を行い、ご本人が納得した上での行動ができるように支援し、強制することなく待つことを大切にして、信頼関係を深めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のレクリエーションは職員が決めてしまっている。外出において、ご利用者様の希望にすぐに対応できない場合があるが、都合のつく時間をお伝えしたりして対応している。	○ できる限り希望や要望に添えるよう、職員のペースとする仕事は職員の多い時間やご利用者様が活動されていない深夜にできるだけ行う等の工夫を行い、ご利用者様中心の暮らしを作っていくよう努めていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人で選ぶことができる方にはご本人に選んでいただき、そうでない方も、ご本人の趣味に合わせたおしゃれができるようにしている。理美容も希望に添って対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に一回の食事作りでは、一人ひとりの能力に応じて行っている。日々の食事の準備や片付けは、ご利用者様と共に行っている。食事中は食事が弾むよう一緒に席に着くようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の身体に影響がない範囲で一人ひとりのご希望に合わせて、購入したり、一緒に買いに行ったりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつの使用はできる限りしない方向で、排泄パターンの把握に努め、夜間のみりハビリパンツ等、その人その人に合わせた排泄誘導ができるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	早い時間帯や夕方など、入浴の時間帯を、その人その人に合わせながら行っている。しょうぶ湯やゆず湯など季節感を感じていただいたり、併設のデイサービスの広い浴場を借りて入浴していただくこともある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼の間に休まれる場合には、パーテーションを利用して安心して休んでいただけるようにしている。消灯時間は設けているが、強制せず一人ひとりの時間で休んでいただいている。どうしても眠れない時は、お茶やおやつ、傾聴により安心していただくようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できている方と、心身の状況で十分にできていない方がいる。	○	生活歴やADLの理解を深め、さらに一人ひとりの心身の状況を把握し、的確に支援できるようにしたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力によっては、ご家族との話し合いも行った上で、ご自身でお金を所持しており、外出の際に支払いがご自身でできるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブなど希望に応じて日々出かける事ができるようにしている。その場で対応できない場合も、出かける時間をお約束し対応している。	○	今まで以上に外に出かける機会や時間を設けることができるよう、工夫をしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「紅葉が見たい」との希望で眉山のロープウェイからの紅葉を楽しんだり、外出やドライブでは、利用者様の意見をお聞きしながら行っている。個別(家族のお見舞いや墓参り等)にも対応している。	○	個別の外出が今まで以上にできるよう、時間を作る工夫をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	詰め所の電話を使っただけのようにしており、家族への手紙を書くよう促している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者には挨拶を忘れず、また必要に応じて、近況報告しながら、ご本人と楽しく過ごす事ができるよう、居室だけでなくホールや畳の間でも過ごすことができるよう、さりげなく整えたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束ゼロ宣言を掲げ、身体拘束をしないケアの実践に向けて努めている。やむを得ない場合に備えて、同意書は用意できている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設時より「心の拘束をしない」を念頭に施錠はしていない。玄関チャイムに気を配り外に出られた時は、さりげなく付き添うようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者様が現在どこで何をしているか、把握するように努め、夜間も定時巡回も含め事故防止に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類や誤飲すると危険な物は職員が管理または見守りができる範囲で使用できるようにしている。刃物や薬品などは施錠できる場所に保管している。また、ご利用者様一人ひとりに合わせて管理が必要なもの、必要でないものにも配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	医師や消防署員より知識を学ぶ機会を設けており、参加できなかった職員にも周知している。ヒヤリハットや事故報告書も職員に周知しており、事故再発防止について検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	医師や消防署員より知識を学ぶ機会を設けており、参加できなかった職員にも周知している。	○	今後も勉強会のテーマとして取り上げていきたい。また外部の講習(消防署や日本赤十字等)にも積極的に参加していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の避難訓練を定期的に行っている。その他の災害時については運営推進会議においても議論がなされ、避難場所の確認や、避難における問題点(周辺のブロック塀について等)についても意見がだされた。	○	避難所への避難訓練や経路についての検討、火災時の避難訓練の頻度を増やしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては、ご家族との話し合いを十分に行い、場合によっては医師や看護師等他職種からも意見をいただきながら、コールマットや補助バー、コーナーガードなど使用し対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変は、職員間で周知すると共に、法人内医師に連絡すると共に、指示を仰ぐようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より提示される薬品の内容を把握し、正しく服薬できるよう支援している。症状の変化については、受診の際に医師に伝達するようにしている。服薬時はテーブルに置いたりせず、服薬したかどうか一人ひとり確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多く取ったり、服薬の工夫(増減)を行っている。また毎日ヨーグルトを提供する取り組みを行っている。排便については毎日記録しており、便秘の場合には医師に報告し指示を仰いでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っているが、自力でできるご利用者様に対しては十分にできていない。	○	さりげなく自尊心を傷つけないよう、継続して働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録している。水分量は注意が必要な方のみ行っている。咀嚼や嚥下の能力や好みに合わせて、軟飯・お粥・キザミ食・おにぎり・パン食など一人ひとりに合わせて対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	年間を通じて、次亜塩素酸ナトリウムの消毒液を使っての館内消毒を実行している。また外出後のうがいや手洗いについても励行している。インフルエンザの予防接種も職員共に行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器やフキンの消毒を行っている。食材も溜めたりせず、適温での保存、賞味期限、消費期限に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は施錠せずいつでも出入りできるようにし、鉢植えを置いたりして来客者を迎えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホールには、随所に花を生けたり、行事の写真を掲示したりしてる。トイレも清潔を維持し、芳香剤を置き、消臭に気をつけている。	○	掃除や消臭にEM技術を導入し、ご利用者様にやさしい、かつ、居心地の良い共用空間にしていきたい。 1階ホールが少し暗いので明るさの工夫をしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その都度、ソファーを移動したり、座敷などを利用したり、屋外にも椅子を置き、思い思いに過ごしていただけるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り、使い慣れた物を持ってきていただくようにしており、鏡台や囲碁の道具、昔から使っていたミシンなどを持ってきていただいている。居室内も一人ひとりに合わせた配置にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は毎日行っている。各居室に湿温度計を設置し、温度調節は職員がこまめに行っている。ご本人がエアコンを操作される場合も、さりげなく温度管理を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の無い構造であり、随所に手すりを設置し、テレビなどは転倒防止柵を施し、安全で自立した生活が送れるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの表示を分かりやすく表示したりして、混乱がないようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外にベンチを置き、過ごす事ができるようにしたり、テラスでは洗濯物を自由に干したり、取り込んだりできるようにしている。畑では季節の野菜を栽培しており、草抜きや水やりをしていただいている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者様の要望や希望に耳を傾け、できる限り実現できるように日々努めています。また日々の生活の中に笑い声が溢れる雰囲気作りを大切にし、生き生きとした表情を見せていただけるよう支援することを心がけ、職員は家庭的で居心地の良い場を提供できるよう「気持ちの良い挨拶と笑顔」を今後も実践していきたいと考えています。また、現在タクティール・ケアの導入を進めています。タクティールとはラテン語で「触れる」という意味ですが、手や足、背中などに柔らかく手で触れることで、安心感や心地良さを得ていただき、温かいコミュニケーションを深めていきたいと思っております。